

# 福岡邦夫

Kunio Fukuoka

ジャズ・アドリブのレスナー一筋に20年以上行なってきた福岡邦夫氏。そのレッスン室は東京・文京区の閑静な住宅地の中にあり、これまでにアマチュアからプロのプレイヤー、またサクソだけでなくトランペット奏者やフルート奏者などが福岡氏に教えを受けたいと門を叩いた。そのカリキュラムは、ジャズをきちんと演奏するための必要不可欠な理論を、長年の経験から福岡氏が独自に作り上げたものであった。

## 培ってきた経験を基にした明確なカリキュラム

### アドリブプレイのための和声学

福岡氏がここでレッスンを始めたのが1981年。もともと故・松本英彦氏の主宰する音楽教室で講師を勤めていたが、教室の移転に伴い、福岡氏が自宅でレッスンを始めるようになり、「JAZZ LAB SEED」が誕生した。ジャズのレッスンというと、毎日ライブハウスなどで活動を行なっているプレイヤーが講師を務めている教室がほとんどだろう。しかしJAZZ LAB SEEDでは生徒を教育することに重点をおき、福岡氏の手による独自の確立されたカリキュラムを柱としてレッスンが進められている。それは過去に福岡氏がまだ修行中だった時代に苦労したことを基にして作られた貴重なテキストである。

「生徒は初心者からプロまでいます。カリキュラムは適宜、生徒さんの進度や理解力に合わせて進め方やアプローチを変えています。基本的にはみなさん同じことを学んでもらいます。ジャズ理論はパークリー音楽大学のカリキュラムを基本として世界中に普及していますが、これはクラシックの和声学と論理的には同じなんです。私は、高校生のときにビッグバンドのコンサートマスターを務めたこともあり、和声学を勉強しましたが、和声学は基本的にゆっくりしたメロディを対象とした理論。でも曲を演奏するときはゆっくりしたメロディばかりじゃないのに、速いメロディのための理論を書いた文献がほとんどないのです。」

### 標準語法のジャズで勉強する

福岡氏の教室ではアドリブを学ぶことが主体となるので、サクソ以外の楽器の生徒も教えを乞っている。

もちろんサクソ以外の楽器については奏法のレッスンはしないので、基本的にはある程度確立した技術を持っている人に限られるが、理論やアドリブについてきちんと学びたいという生徒は多い。レッスンは



### 福岡邦夫

1953年生まれ。東京出身。高校時代よりアルトサクソを始め、都立小石川高校のビッグバンドでバンドマスターを務める。高校卒業後、第2回スイングジャーナルジャズ奨学生に選出。国際基督教大学在学中より、「ピット・イン」や「タロー」などで演奏活動始める。大学卒業後、松本英彦氏に師事。演奏活動やレコーディングなどで同氏と共にサクソ奏者として活躍。また同氏の主催する「ラブリー・ジャズ・ミュージック・スクール」で講師を務める。1981年より「JAZZ LAB SEED」を主宰、多くの後進を指導し、現在に至る。

ビバップ・ジャズを柱として進められる。ビバップは原則として8分音符でメロディを作っていく音楽なので、メロディの速度の多様性が比較的少なく、勉強するには適した素材となっているためだ。

「50年代以降のジャズは音形もリズムも、より多様化しますが、ビバップはジャズの標準語法のような部分が大きく、それを勉強し、発展させれば、自分なりのメロディづくりができるようになります。」

和声学は本を読んで独学で勉強すればできないものではない。しかし、自分の中からわき出てくるようなメロディやアドリブを

音楽にするには、メロディの構造をきちんと勉強しなければならないと福岡氏は語る。

### 生音を普通の部屋で聴けたことが財産の一つ

高校時代から理論を修得しようと勉強をしてきた福岡氏だが、ゆっくりとしたハーモニーについてはある程度理解できたものの、速いメロディになるとどう演奏したらよいかわからなかったという。

「私自身がレッスンを受けに行くようになって目から鱗が落ちたような気がしました。私自身、いろいろと勉強したい。レッスンに通えばいろいろと覚えられるはずだと思い、レッスンに通うようになりました。そこで学んだことはたくさんありますが、今でも一番ためになっていることは、先生の生音を普通の部屋で、マイクもPAも通さずに聴けたことなんです。ライブハウスでは生音ではないでしょう。物理的にいい音をそのころにわかるようになったというのが大きい財産ですね。」

レッスン生として、そして松本氏の教室で講師を務め、また付き人として約5年間、継続して師匠の生音を聞き続けられたこと——これが福岡氏の基礎となっていることは間違いないだろう。上達したい、その思いはきっと誰もが同じはずだ。そのためアプローチをどう選ぶかが重要なポイントなのである。レッスンを受けるということは目標に近づくための道しるべと言える。

